



**Kodak**

# i4000 プラスシリーズスキャナー

TWAIN アプリケーション用  
スキャンセットアップガイド

# TWAIN データソースの使用

---

[Scan Validation Tool] の起動.....	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス .....	2
TWAIN データソースの使用 .....	4
開始方法.....	4
新しい設定のショートカットの作成 .....	5
イメージ設定の変更.....	6
デバイス設定の変更.....	7
コダック スキャナーメインウィンドウ.....	8
イメージ設定ウィンドウ .....	12
プレビューウィンドウ.....	13
[一般] タブ .....	15
[サイズ] タブ.....	17
[調整] タブ：白黒.....	20
[調整] タブ：カラー／グレースケール .....	22
[拡張機能] タブ .....	24
詳細イメージセットアップ.....	27
[詳細] タブ .....	27
[原稿内容の設定] タブ .....	31
例 1：原稿の色量を基にカラー / グレースケールと白黒スキャ ンを切替え .....	33
例 2：原稿の各面に対して複数イメージを作成 .....	35
例 3：両面にそれぞれ異なる設定を使用.....	37
デバイス設定ウィンドウ .....	39
デバイス - [一般] タブ .....	40
デバイス - [プリンタ] タブ.....	43
デバイス - [重送検知] タブ.....	47
[診断] ウィンドウ.....	49
診断 - [一般] タブ .....	50
診断 - [デバッグ] タブ.....	51
診断 - [ログ] タブ .....	52

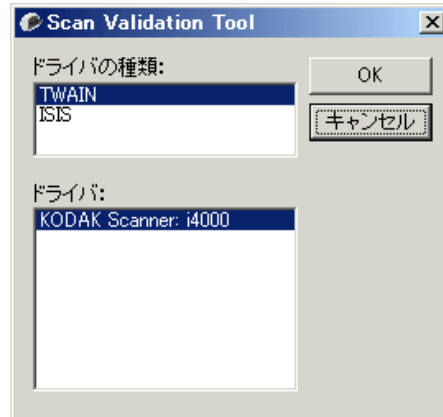
コダック i4000 プラスシリーズスキャナーはイメージ処理機能によつて高画質のスキャンイメージを取得できます。

**イメージ処理**とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像の品質を自動的に向上させる機能のことです。

本ガイドは TWAIN データソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します機能は、使用しているスキャンアプリケーション（コダックキャプチャソフトウェアなど）のユーザインターフェースでも選択できます。

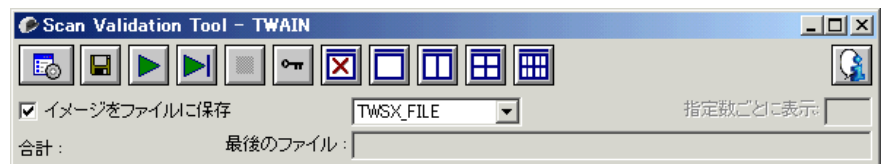
## [Scan Validation Tool] の起動

1. [ スタート ]>[ プログラム ]>[kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。



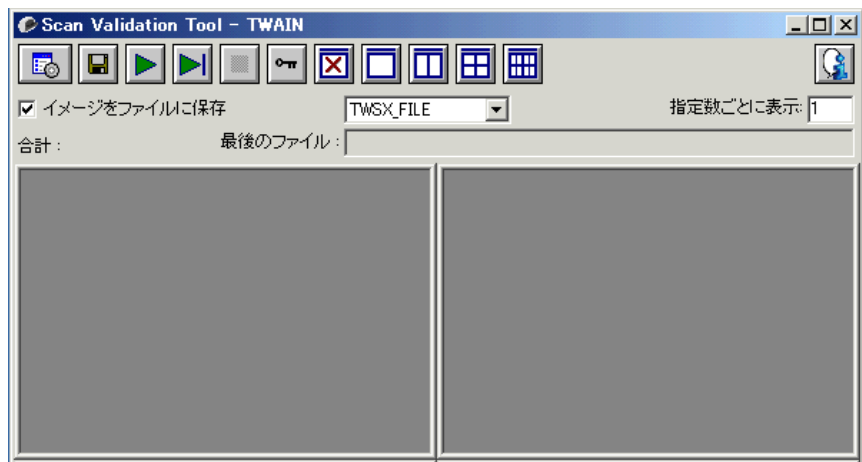
2. [ドライバの種類] から [TWAIN] を選択し、[ドライバ] から [コダック i4200/i4600] を選択します。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。



## [Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインターフェースを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool を使用すると、TWAIN データソースを使用してスキャナーの機能を検証できます。



## [ ツールバー ] ボタン



**セットアップ** — 選択されたドライバ用のユーザーインターフェースを表示します。



**保存先** — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、**[イメージをファイルに保存]**を選択した場合にのみ利用できます。



**スキャン開始** — 入力トレイの原稿をスキャンします。



**1 ページスキャン** — 1 ページだけスキャンします。



**停止** — スキャンを終了します。



**ライセンスキー** — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



**表示モード (画像なし)** — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



**表示モード (1 画像)** — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



**表示モード (2 画像)** — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



**表示モード (4 画像)** — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



**表示モード (8 画像)** — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。

**イメージをファイルに保存** — 選択した場合、イメージが指定したディレクトリに保存されます。

**イメージ枠 (指定数ごと)** — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

**[Total] (合計)** — 現在の [Scan Validation Tool] セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- TWAIN データソース (または ISIS ドライバ) にアクセスする場合は、[Scan Validation Tool] ダイアログボックスの**セットアップ**アイコンをダブルクリックします。

**[Last File] (最後のファイル)** — 最後に保存した画像のフルパスとファイル名を表示します。

## TWAIN データソースの使用

コダック i4000 プラスシリーズスキャナーは、TWAIN データソースを使用して様々なイメージを提供できます。TWAIN データソースはスキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAIN データソースを使用する場合、コダックスキャナーメインウィンドウには [設定のショートカット] が一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな入力原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は [設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。詳細は、この章の後半にある「新しい設定のショートカットの作成」および「イメージ設定の変更」を参照してください。

## 開始方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することです。これは、コダックスキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、[OK]/[スキャン] を選択して実行します。

このスキャナーではすでに [設定のショートカット] がいくつか定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、これ以降のすべてのスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の 2 つのウィンドウにあります。

- **イメージ設定:** コダック スキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[拡張機能] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定できます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定を行うこともできます。
- **デバイス設定:** [デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般] タブと [重送検知] タブにアクセスできます（プリンタがインストールされている場合は [プリンタ] タブも）。デバイス設定ウィンドウでは、[診断] にアクセスすることもできます。

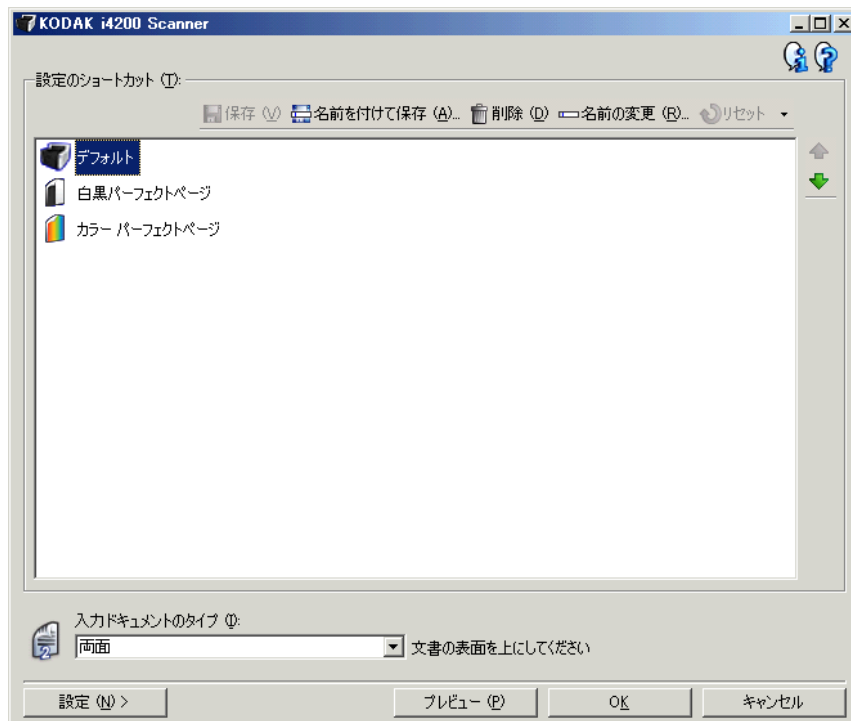
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。  
コダックスキャナメインウィンドウの各機能とオプションの詳細な説明は、「コダック スキャナーメインウィンドウ」を参照してください。

注：設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先する場合があります。この場合、そのショートカットがコダック スキャナーメインウィンドウに斜体で表示され、その隣に <「変更済み」> と表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず個人設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAIN データソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK] をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。設定のショートカットを使用しないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して [いいえ] を選択してから、スキャンを実行してください。

## 新しい設定のショートカットの作成

コダック スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。



1. [設定のショートカット] リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適な [設定のショートカット] を選択することを推奨します。
2. [入力ドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから、原稿の表面のイメージを作成するのか、裏面のイメージを作成するのか、または両面のイメージを作成するかを選択します。
3. スキャナーメインウィンドウで [設定] を選択します。イメージ設定ウィンドウの [一般] タブが表示されます。

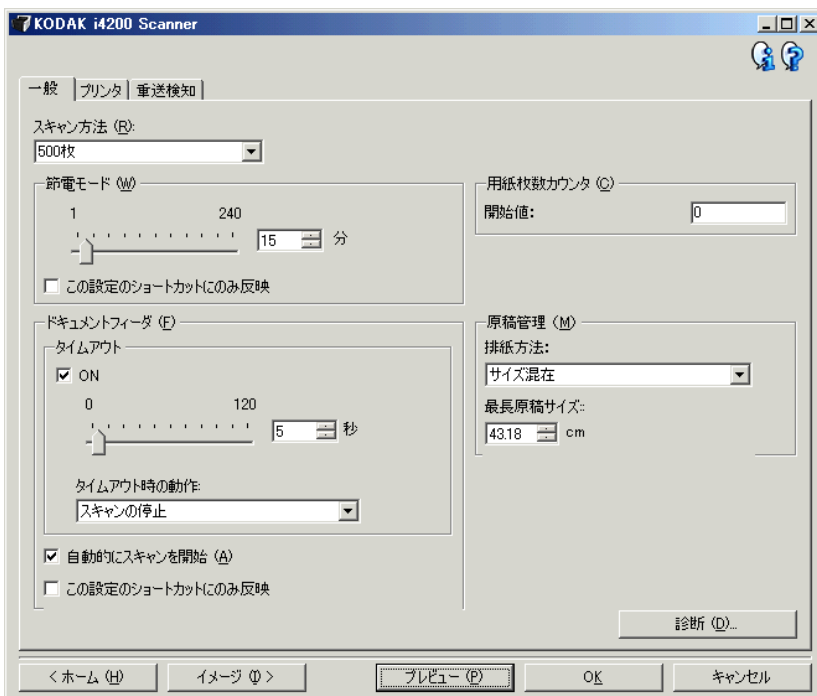
4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。  
注：必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。
5. スキャナーの入力エレベータに原稿を 1 枚セットします。
6. どのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、  
[プレビュー] をクリックします。  
注：表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容をさらに調整します。
7. イメージ設定ウィンドウの [デバイス] を選択して目的のデバイス設定を定義し、デバイス設定ウィンドウを表示します。
8. それぞれのタブで、スキャナーに実行させる適切なオプションやアクションを選択します。
9. [ホーム] をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. [名前を付けて保存] を選択して、名前を付けて保存ウィンドウを表示します。
11. 判別しやすい設定の新しいショートカット名を入力して、[保存] をクリックします。

## イメージ設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウの [設定のショートカット] リストから目的とするイメージ出力に最も適切な設定のショートカットを選択します。
2. スキャナーメインウィンドウから、[入力ドキュメントのタイプ] を選択します。
3. [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
4. 設定内容を変更する前に、イメージ設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。
5. 使用する各オプションでは、スキャンするときに実行する項目を適切に選択します。
6. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへ選択項目を保存します。

## デバイス設定の変更

1. スキャナーメインウィンドウの [設定のショートカット] リストから目的とする出力に最も適切な設定のショートカットを選択します。
2. **[設定]** を選択して、イメージ設定ウィンドウを表示します。
3. **[デバイス]** を選択します。デバイス設定ウィンドウが表示されます。

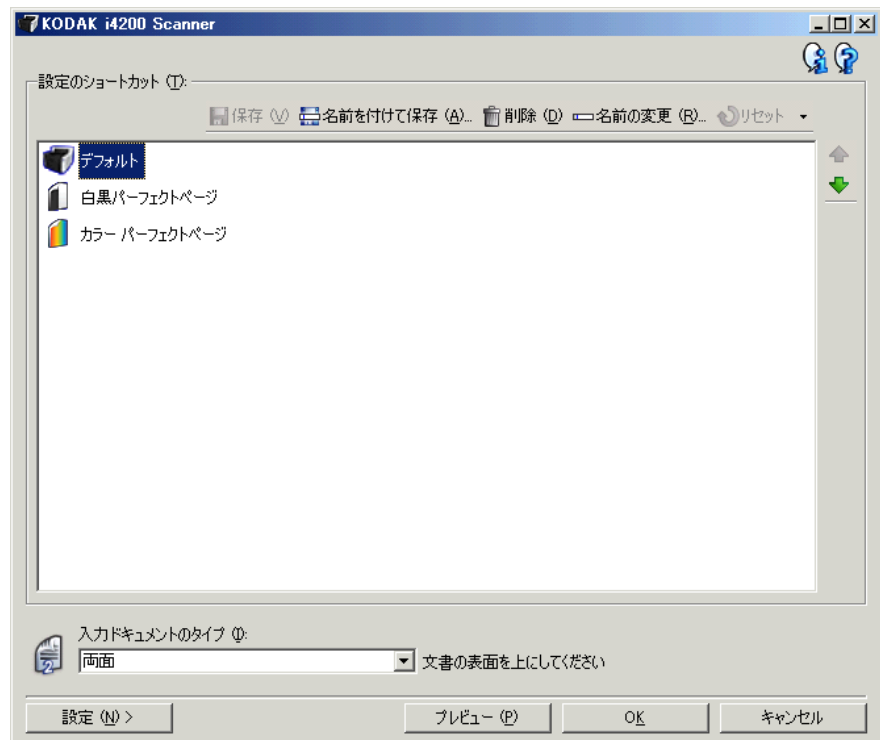


4. 設定内容を変更する前に、デバイス設定ウィンドウの各タブをクリックして、どのようなオプションや機能があるかを確認します。これらの機能の詳細は、「デバイス設定ウィンドウ」を参照してください。
5. 使用する各オプションでは、スキャン時に実行する項目を適切に選択します。
6. 選択が終了したら、**[ホーム]** を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、**[保存]** をクリックして選択項目を [設定のショートカット] へ保存します。



## コダック スキャナーメインウィンドウ

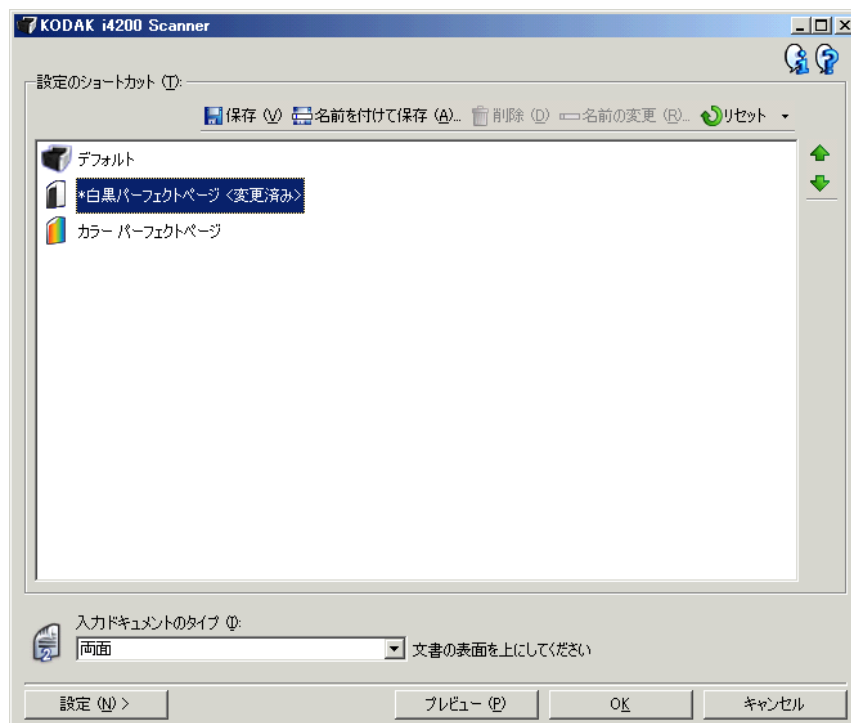
コダック スキャナーメインウィンドウは、スキャナーのユーザーインターフェースのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、[OK] / [スキャン]の順に選択するだけでスキャンできます。



**[設定のショートカット]**— 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。次のショートカットが用意されています。

- デフォルト — スキャナーのデフォルト設定
- 白黒パーフェクトページ
- カラーパーフェクトページ

注：[設定のショートカット] を変更してその変更を保存していない場合、[設定のショートカット] に <変更済み> というテキストが付き、名前が斜体で表示されます。（例：\*デフォルト<変更済み>）。













**入力ドキュメントのタイプ** — 原稿のいずれの面の電子イメージを出力するかを選択できます。

- **両面**：原稿の両面をスキャンします。
- **片面 - 表**：原稿の表面のみスキャンします。
- **片面 - 裏**：原稿の裏面のみスキャンします。

注：入力エレベータではスキャンする原稿の表面を上に乗せてください。

## アイコン

	<b>保存</b> — 選択した [ 設定のショートカット ] に対して行った変更を保存します。
	<b>名前を付けて保存</b> — [ 名前を付けて保存 ] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [ 設定のショートカット ] として保存します。
	<b>削除</b> — 選択した [ 設定のショートカット ] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これは、ユーザが作成したショートカットに対してのみ利用できます。
	<b>名前の変更</b> — [ 設定のショートカット ] の名前を変更します。これは、ユーザが作成したショートカットに対してのみ利用できます。
	<b>リセット</b> — 選択した [ 設定のショートカット ] への変更で保存していない変更（例：名前が斜体で < 変更済み > が付いている）を元に戻すことができます。
	<b>復元</b> — [ 復元 ] ウィンドウを表示して、スキャナーに付属のショートカットに対して行った変更を元に戻します。これは、1 つ以上の付属のショートカットが変更または削除されている場合にのみ利用できます。
	<b>インポート</b> — [ 設定のショートカット ] のセットをインポートして、現在のショートカットをすべて置き換えます。このオプションを選択すると、[ ファイルを開く ] ウィンドウが表示され、インポートするショートカットを選択できます。
	<b>エクスポート</b> — 現在の設定のショートカットをすべてショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OS の [ ファイルの保存 ] ウィンドウが表示され、ショートカットセットのフォルダおよびファイル名を選択できます。
	<b>上に移動</b> — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ上の場所に移動します。[ 設定のショートカット ] を移動すると、再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
	<b>下に移動</b> — 選択した設定のショートカットを、リスト中の 1 つ下の場所に移動します。

注：

- **削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポート**は、選択した [ 設定のショートカット ] が変更中（例：名前が斜体で < 変更済み > が付いている）の場合には使用できません。
- 設定のショートカットを移動すると、再び移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別の PC に設定のショートカットを転送する場合：転送したいショートカットがある PC で、[ **エクスポート** ] を選択し、別の PC で [ **インポート** ] を選択します。
- 現在のショートカットセットに [ 設定のショートカット ] を追加する場合：
  1. **インポート** を選択してショートカットセットをロードします。
  2. [ 設定のショートカット ] を新規作成します。
  3. ショートカットセットを置き換える場合は **エクスポート** を選択して同じ名前で保存する必要があります。

**設定** — [イメージ設定] ウィンドウで、選択した [設定のショートカット] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにもアクセスできます。

**プレビュー** — スキャンを開始すると、プレビュー領域にイメージ設定ウィンドウにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、**コダック** スキャナーメインウィンドウを閉じます。

### 情報アイコン



**バージョン情報**：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。

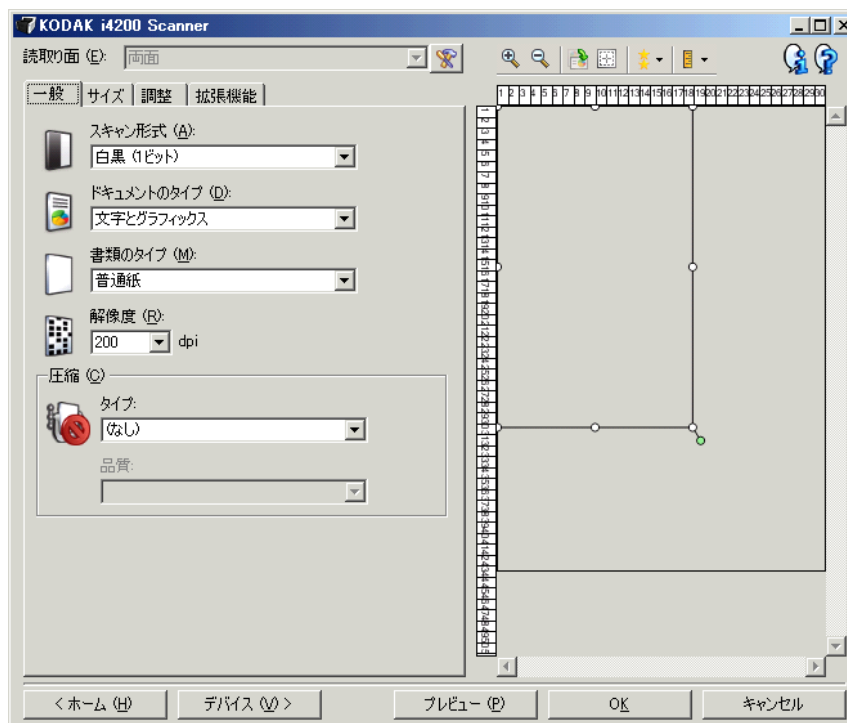


**ヘルプ**：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

## イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。イメージ設定ウィンドウには一般、サイズ、調整（カラー／グレースケールと白黒）、拡張機能の各タブがあります。

**読み取り面** — 設定する読み取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。









注：[読み取り面] オプションは、詳細設定が [詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。



**詳細イメージセットアップ**：[詳細] タブを表示します。

## [ ツールバー ] ボタン

	<b>ズームイン</b> ：プレビュー領域に現在表示されているイメージを拡大します。
	<b>ズームアウト</b> ：プレビューウィンドウに現在表示されているイメージを縮小します。
	<b>アウトラインを回転</b> ：アウトラインを 90 度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ利用できます。
	<b>アウトラインを中央に配置</b> ：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインの X 原点を調整します。
	<b>プレビューの品質</b> ：スキャン画像の品質を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>標準</b>：イメージを低解像度で表示します。</li> <li>• <b>大</b>：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー]ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。</li> </ul> 注：ドキュメントの内容に応じて、イメージが実際のように表示されるよう、拡大表示する必要がある場合があります。
	<b>単位</b> ：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[単位]オプションは、[インチ]、[センチメートル]、および[ピクセル]です。

## プレビューウィンドウ

プレビュー領域ウィンドウに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキャンの実行後に、このウィンドウにイメージが表示されます。

**アウトライン** — [ドキュメント：マニュアル指定] または [イメージ：ドキュメントの一部] を [サイズ] タブから選択しても、現在の [アウトライン] 選択項目が表示されます。アウトラインがプレビューイメージと位置が合っていない場合、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで移動させると、カーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の 1 つにカーソルを置くと、2 つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の 1 つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスポインタを置くと、アウトラインの角度を調整できます。



**ホーム** — コダック スキャナーメインウィンドウに戻ります。

**デバイス** — [デバイス設定] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** — スキャンを開始し、プレビューウィンドウにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

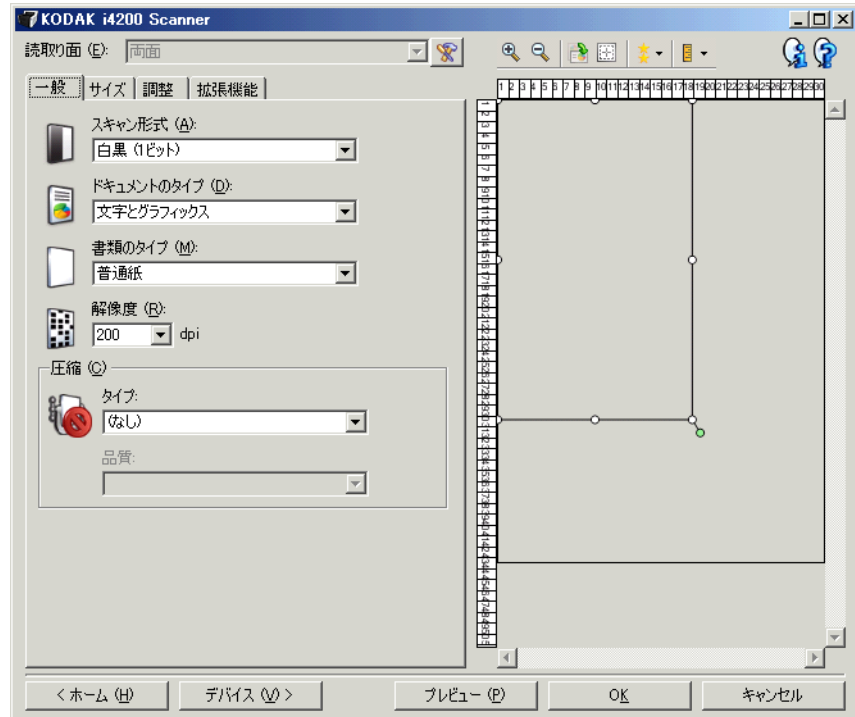
**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注：このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

## [一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



**スキャン方法** — イメージのフォーマットを選択できます。

- **カラー (24 bit)** : カラーイメージを生成します。
- **グレースケール (8 ビット)** : グレースケールイメージを生成します。
- **白黒 (1 ビット)** : 白黒イメージを生成します。

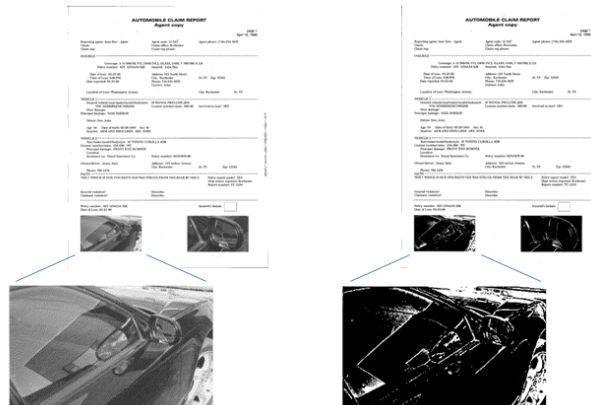
注 : [スキャン方法] オプションは、[読取り面あたりのイメージ数 : 1] が [詳細] タブで選択されている場合にのみ利用できます。

**ドキュメントのタイプ** — ドキュメントの内容のタイプを選択します。

- **文字とグラフィックス** : 文書、グラフィック (棒グラフ、円グラフなど)、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **テキスト** : 文字原稿の場合に選択します。



- **文字と写真**：文書と写真が混在している原稿の場合に選択します。他のドキュメントのタイプオプションとは異なり、スキャナーは原稿毎に自動分析して高解像度イメージを検出し、イメージのその領域にのみハーフトーンを適用します。



- **写真**：写真が主体の場合に選択します。

**原稿のタイプ** — スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌が選択できます。

**解像度** — 1 インチあたりの点 (dpi) の数を指定します。この値は、スキャンしたイメージの画質に大きく影響します。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。100、150、200、240、300、400、600 dpi が選択できます。

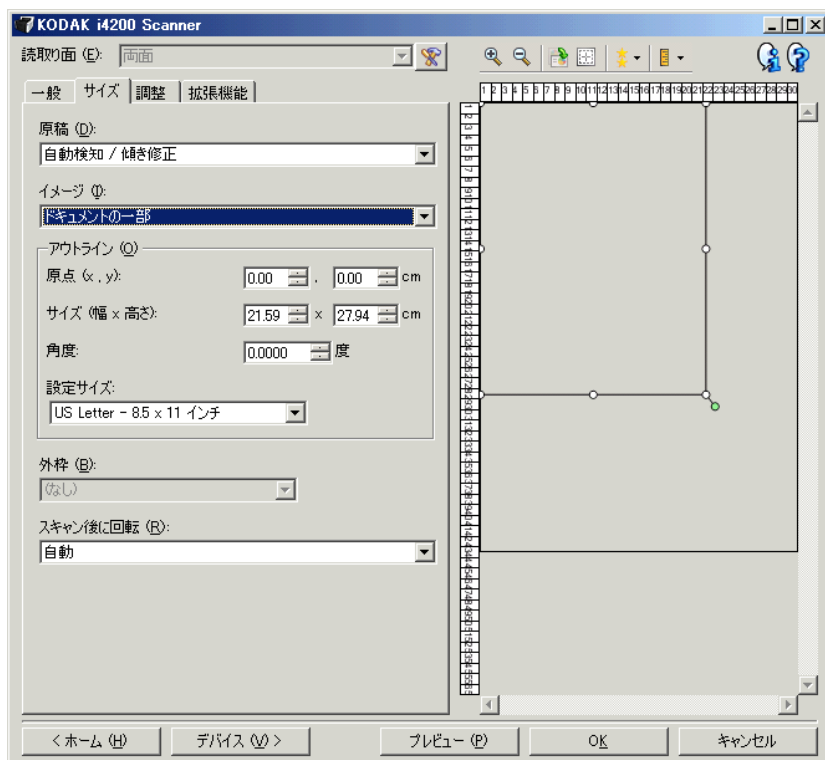
**圧縮** — 電子イメージのサイズを縮小できます。

- **タイプ**：圧縮を選択します。

注：[グループ-4] オプションは、[スキャン方法] で **白黒 (1ビット)** ] を選択した場合のみ使用できます。

- (なし)：圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
  - **グループ-4**：白黒イメージを圧縮する CCITT 標準を使用します。通常は、TIFF ファイルと組み合わせて利用されます。
  - **JPEG**：JPEG 技術を使って、カラー／グレースケールイメージを圧縮します。
- **品質**：JPEG 圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。
    - **ドラフト**：圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
    - **標準**：標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
    - **高**：一部圧縮され、品質の良いイメージが生成されます。
    - **最高**：最小圧縮率で非常に良い品質のイメージが生成されます。
    - **高品質**：最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

## [サイズ] タブ



**ドキュメント** — 搬送される原稿の検知方法を選択します。

- **自動サイズ検知／傾き補正**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補正します。
- **自動サイズ検知**：各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **写真**：スキャナーは原稿上の写真を検知し、写真のみのイメージを返します。スキャナーが複数の写真を原稿上に検知した場合は、すべての写真が含まれる 1 つのイメージが返されます。
- **マニュアル指定**：[アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが返されます。同一サイズの原稿のスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ — 原稿のどの部分をイメージ生成するかを選択します。

• **ドキュメント全体 :**

- [ドキュメント : 自動サイズ検知 / 傾き補正]、[ドキュメント : 自動サイズ検知]、または [マニュアル指定 : マニュアルサイズ検知] を選択すると、原稿全体を返します。
- [ドキュメント : 写真] を選択すると、原稿全体から写真を検知します。

• **ドキュメントの一部 :**

- [ドキュメント : 自動サイズ検知 / 傾き補正] を選択すると、[アウトライン] オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。
- [ドキュメント : 写真] を選択すると、[アウトライン] オプションで指定する原稿の一部分から写真を検知します。

**アウトライン** — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューウィンドウにアウトラインが表示されます。

• **原点 (x, y) :**

- [ドキュメント : 自動サイズ検知 / 傾き補正] または [ドキュメント : 写真] を選択すると、(x) はドキュメントの左端からの距離、(y) はドキュメントの上端からの距離になります。
- [ドキュメント : マニュアル選択] を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。

• **サイズ (幅 x 高さ) :**

- [ドキュメント : 自動サイズ検知 / 傾き補正] または [ドキュメント : マニュアル選択] を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。
- [ドキュメント : 写真] を選択すると、これが原稿内で写真を検知する領域の幅と高さになります。

注 : アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

• **傾斜 :** アウトラインの角度を選択できます。

• **設定サイズ :** 一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。アウトラインサイズがリストのどのサイズとも一致しない場合、[カスタム] が表示されます。

注 : マウスを使用してプレビューウィンドウに表示されるアウトラインを調整することもできます。

**外枠** — イメージ端の処理を選択できます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

- (なし)
- **追加**：イメージの4辺に約0.25 cmまでの黒枠を追加します。  
注：このオプションは、[ドキュメント：自動サイズ検知]、または [ドキュメント：マニュアル指定] 選択時に使用できます。

- **削除**：外枠を削除して、原稿に含まれるイメージのみを生成します。外枠はドキュメントの端の振れにより生じます。たとえば、ドキュメントが完全な四角形でない場合や歪んで送信された場合などです。

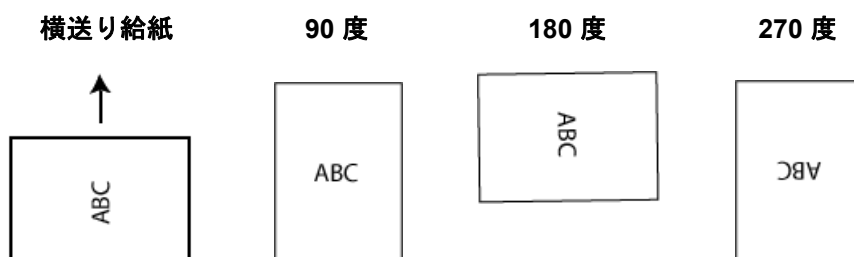
注：

- このオプションで外枠の大部分が削除されない場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは [ドキュメント：自動サイズ検知/傾き補正] および [イメージ：ドキュメント全体] がいずれも選択されている場合に利用できます。

**スキャン後に回転** — スキャン後にイメージに適用される回転角度を選択できます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

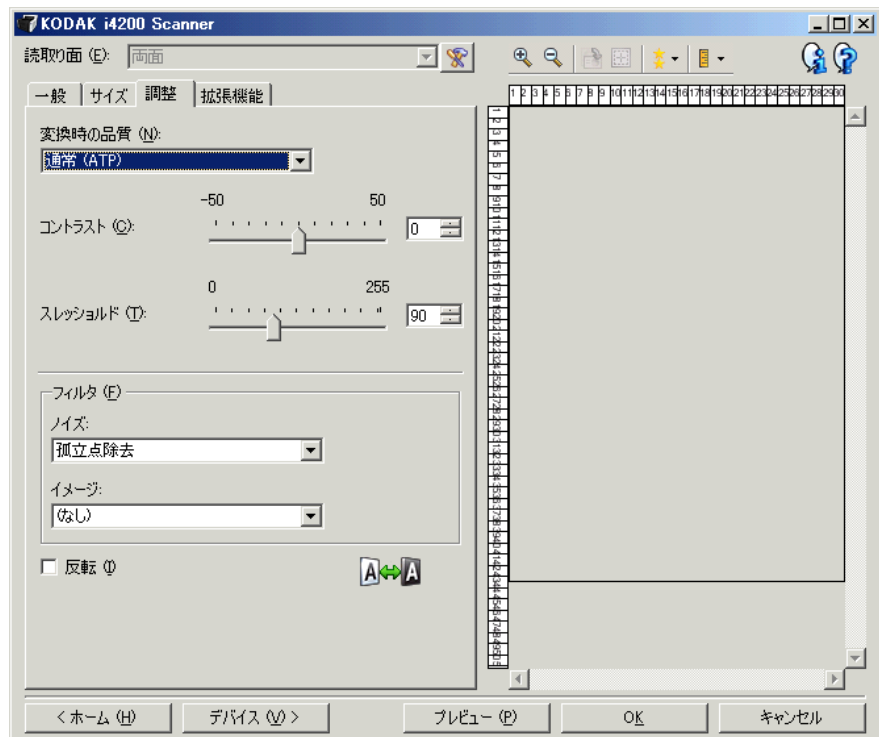
- (なし)
- **自動**：スキャナーが各原稿を分析して、原稿が送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。
- **90、180、270度**：回転する角度を指定します。

次の例は、これらの設定が横方向に搬送された原稿にどのように影響するかを表します。



## [調整] タブ : 白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン方法] で [白黒] を選択した場合に基づきます。



**変換品質** — これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **ベスト - Intelligent QC** : 最高解析に加え、Intelligent QC (品質管理) も実行されます。グレースケールで原稿が生成され、お使いのアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。  
注 : このオプションは、コダック キャプチャ プロソフトウェアでのみ利用可能です。詳細についてはソフトウェアの資料を参照してください。
- **ベスト (iThresholding)** : 原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定で画質が異なる書類 (文字のかすれ、影のある背景、カラーの背景など) をスキャンすることができます。
- **ノーマル (ATP)** : 目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定の書類をスキャンする際に最適です。また、目的の画質を生成する [ベスト] の [コントラスト] 設定が見つからない場合など、異なる設定の書類をスキャンする場合にもこの設定を使用できます。
- **ドラフト (固定)** : ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い書類に最適です。

**コントラスト** — イメージをより鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。これらのオプションの範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は 0 です。

注：これは、[ **変換の品質：最高** ] と [ **変換時の品質：通常** ] 選択時に利用できます。

**スレッシュホールド** — ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します (1 ビット/ピクセル)。この設定値を小さくすると、イメージがより薄くなり、背景を抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションには、0 ~ 255 の値を指定することができます。デフォルトは 90 です。

注：これは、[ **変換の品質：標準** ] と [ **変換の品質：ドラフト** ] 選択時に利用できます。

## フィルタ

### • ノイズ

- (なし)
- **孤立点除去**: 白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール**: 各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺全域ピクセルのマジョリティが白の場合白になり、黒の場合は黒になります。

### • イメージ

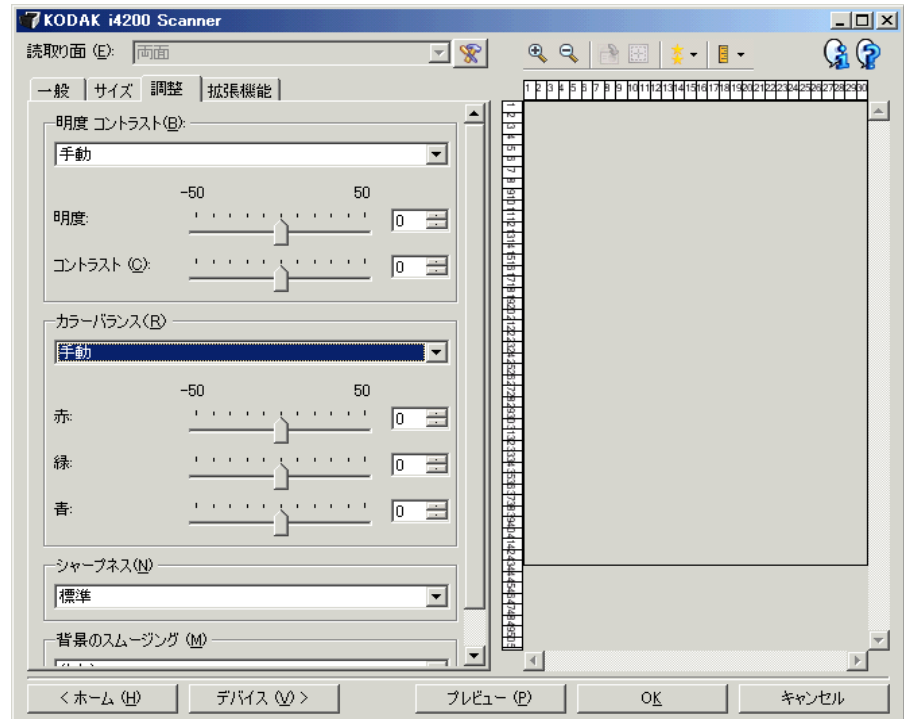
- (なし)
- **ハーフトーンリムーバル**: ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ (新聞の写真など) の見栄えを良くします。

**反転** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

## [調整] タブ: カラー/グレースケール

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン方法] で [カラー] または [グレースケール] を選択した場合に基づきます。

注: ほとんどのオプションには、追加設定があります。追加設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



### 明度とコントラスト

- (なし): オプションを実行しません。
- 手動: すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - 明度 — カラー/グレースケールイメージ中の白のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
  - コントラスト — イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、[-50] から [50] です。

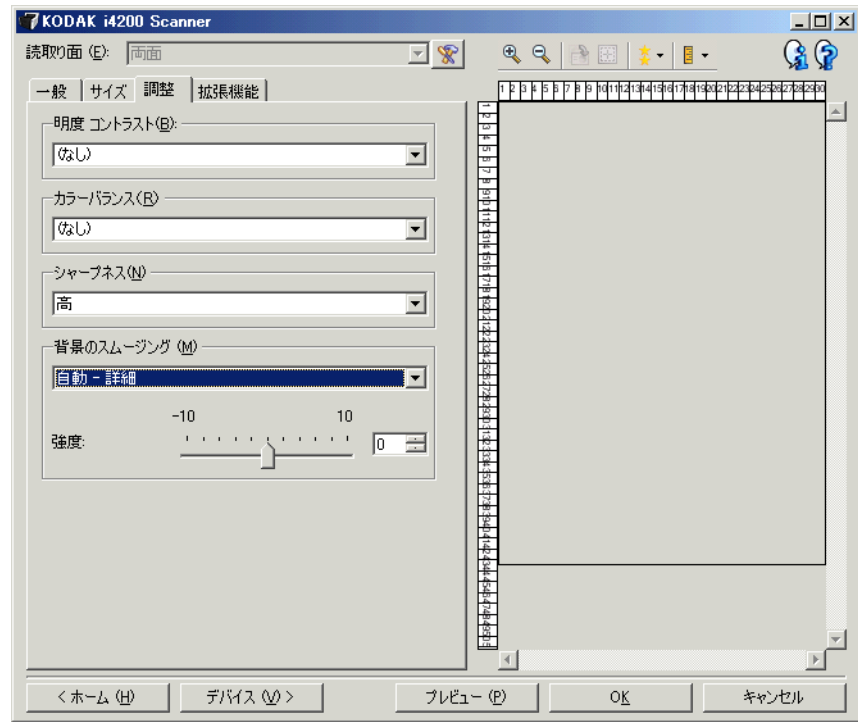
### [カラーバランス]

- (なし): オプションを実行しません。
- 手動: すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
  - 赤 — カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
  - 青 — カラーイメージ中の青のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
  - 緑 — カラーイメージ中の緑のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。

注: カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス — イメージ内の境界線のコントラストを増やします。

- (なし) : オプションを実行しません。
- 通常
- 高
- 強調



背景のスミージング — 背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上しながら、ファイルサイズを軽減できます。

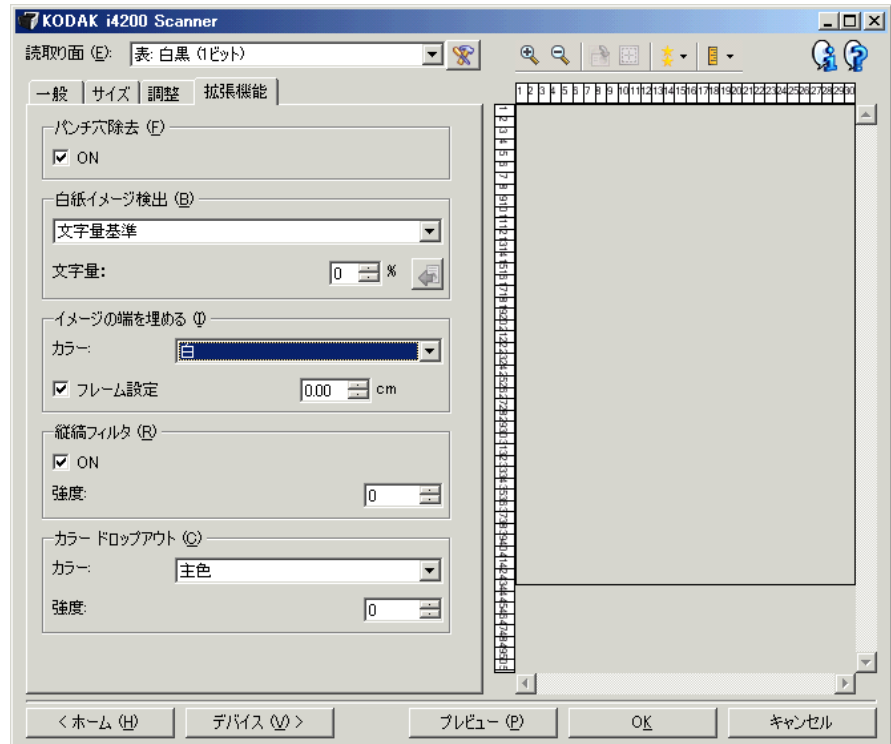
- (なし) : オプションを実行しません。
- 自動 : 背景色を 3 色までスミージングします。
- 自動 - 詳細自動 : オプションの詳細を設定したい上級者向け
  - 強度 — スミージングの強弱を決定できます。値の範囲は、[-10] から [10] です。
- 白に変換 : 背景色を 3 色まで識別し、それぞれを白に変換します。
  - 適用先 :
    - 主色 : 背景色のメインの色を白にします。
    - 中間色 : 中間色を白にします。他の 2 つの背景色も均一なカラーにスミージングします。
    - すべて : 中間色を白にします。他の背景色も 2 色まで白にスミージングします。
  - 度数 : 強弱を調整して背景を決定できます。値の範囲は、[-10] から [10] です。



## [ 拡張機能 ] タブ

[拡張機能] タブのオプションは、[一般] タブの [スキャン方法] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加の設定があります。これらの設定は、オプションが有効の場合にのみ表示されます。すべての設定が画面に収まらない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



**パンチ穴除去** — 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、四角、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーからドキュメントを取り外した際に発生した可能性がある多少の裂け目がある）。

- **ON**：パンチ穴除去をオンにします。

注：写真をスキャンする場合は**パンチ穴除去**を有効にしないでください。

**白紙イメージ検知** — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)**：すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **1 - 文字量基準**：イメージ内の内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
  - **文字量**：スキャナーが白紙であると判断する内容の最大量を選択できます。文字量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、[0] から [100] です。



- **[文字量]** はプレビューイメージの文字量が入力されます。サンプルの白紙原稿（例：レターヘッド付きの白紙シート）がある場合、これは **[文字量]** の設定を決定する指標となります（プレビュースキャンを実行し、このボタンをクリックして、**[文字量]** を適切に調節します）。

注：このオプションはプレビューイメージがある場合に使用できません。

- **ファイル容量基準**：スキャンアプリケーションに送信されたイメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます（他のすべての設定を適用後）。

- **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値の範囲は、1 ~ 1000 KB（1 KB は 1024 バイト）です。

**イメージの端を埋める** — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

- **カラー**：端を埋める色を選択できます。
  - （なし）
  - 白
  - 黒
- **フレーム設定**：このオプションをオンにすると、4 辺が等しく埋められます。

- **上**：上端を埋める量を決定します。

注：このオプションは、**[フレーム設定]** 有効時に 4 辺に適用されます。

- **左/右**：左のオプションは、左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を決定します。

- **下**：下端を埋める量を決定します。

注：**イメージ端埋め**を使用するときは、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

**縦縞フィルタ** — イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、原稿には存在しないのに、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、原稿の汚れ（泥、塵、擦り切れた端など）が原因で発生するか、スキャナーの推奨される清掃手順に従わなかったために発生する場合があります。

- **オン**：縦縞フィルタを有効にします。
- **強度**：強弱を調整して縦縞をフィルタできます。値の範囲は、[-2] から [2] です。デフォルト値は 0 です。

**カラードロップアウト** — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの線とボックスを削除）。白黒イメージの場合、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールの原稿は、これらの設定に影響を受けます。

- **カラー**：ドロップアウトする色を選択します。
  - (なし)
  - **複数**：濃い色（例、黒または濃い青インク）以外をドロップアウトします
  - **主色**：メインの色をドロップアウトします
  - 赤
  - 緑
  - 青
- **強度**：強弱を調整してカラードロップアウトの度合いを調整します。値の範囲は、[-10] から [10] です。デフォルト値は 0 です。

注：[カラードロップアウト] オプションは、[スキャン方法] で [白黒] または [グレースケール] が選択されている場合に利用できます。

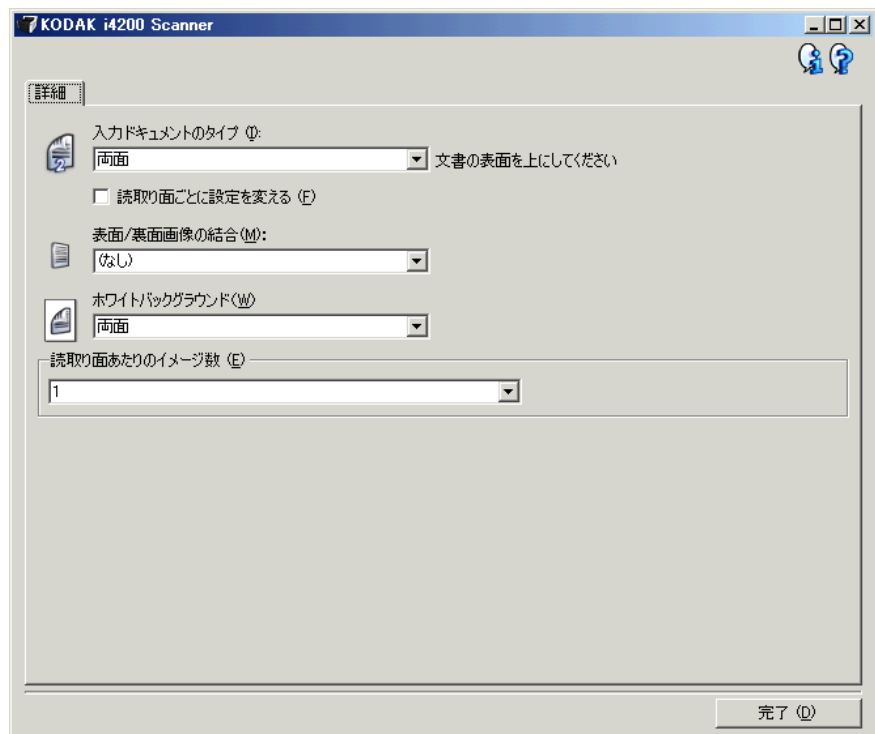
## 詳細イメージセットアップ

### [詳細] タブ

[イメージの詳細設定] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、[読取り面] ドロップダウンボックスの隣にあります。

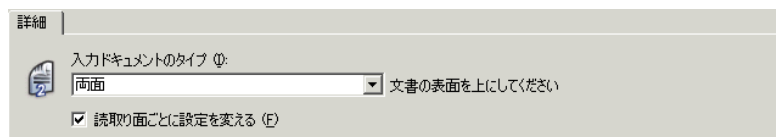


[詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。

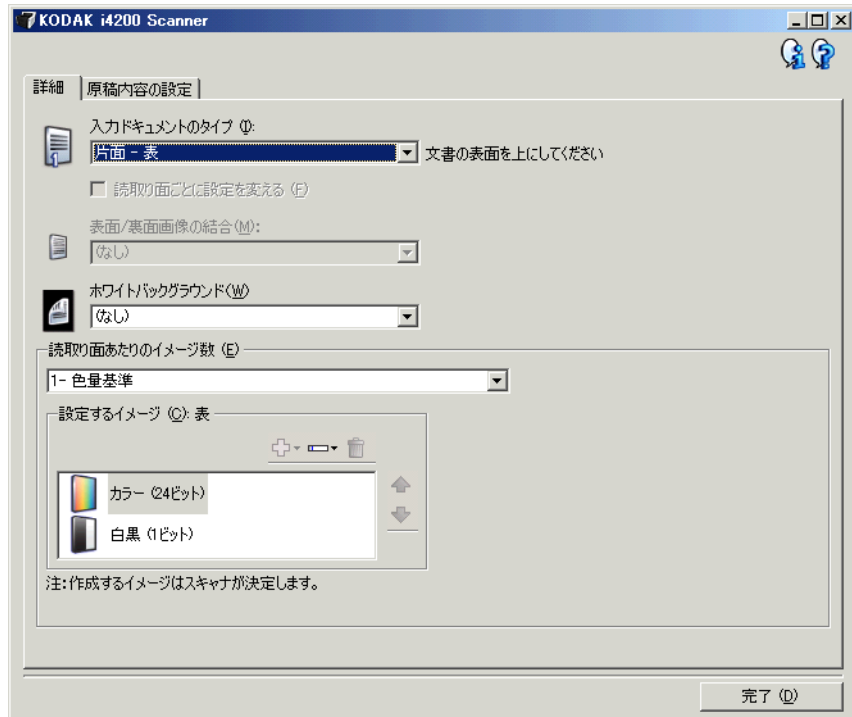


入力ドキュメントのタイプ 設定する面に応じて、[両面]、[片面 - 表]、[片面 - 裏] を選択します。

読み取り面ごとに設定を変える — デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン原稿の各読み取り面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず [入力ドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから [両面] オプションを選択し、次に [読み取り面ごとに設定を変える] のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある **[読取り面]** オプションが有効になり、各読み取り面ごとに異なる設定を選べます。**[読取り面ごとに設定を変更]** を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン原稿の表面に適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、**[読取り面]** オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。



**表面と裏面画像の結合** — 通常は表面、裏面でそれぞれ個別のイメージが生成されますが、このオプションを有効にすると、表面と裏面のイメージを1つに結合します。オプションは以下のとおりです。

- **表面を上**：表面を裏面の上に配置します。
- **表面を下**：裏面を表面の上に配置します。
- **表面を左**：表面を裏面の左側に配置します。
- **表面が右**：裏面を表面の左に配置します。

注：

- このオプションは、**[入力ドキュメントのタイプ]** が **[両面]** に設定し、**[読み取り面ごとに設定を変更]** を選択せず、**[読取り面あたりのイメージ数]** が **[1]** に設定している場合、また、ドキュメントフィーダからスキャンを実行した場合に限られます。
- このオプションはプレビューイメージには適用されません。

**[ホワイトバックグラウンド]**— 有効にするとスキャン時に使用する背景色を黒から白に変更できます。

- **(なし)**：表面と裏面に黒バックグラウンドを使用します。
- **両面**：表面と裏面にホワイトバックグラウンドを使用します。
- **片面 - 表**：ホワイトバックグラウンドを表面で使用します。裏面では黒が使用されます。このオプションは、**[入力ドキュメントのタイプ]**が**[両面]**に設定し、**[読み取り面ごとに設定を変更]**を選択した場合、または、**[入力ドキュメントのタイプ]**が**[片面 - 表]**に設定されている場合に使用できます。
- **片面 - 裏**：ホワイトバックグラウンドを裏面で使用します。表面では黒が使用されます。このオプションは、**[入力ドキュメントのタイプ]**が**[両面]**に設定し、**[読み取り面ごとに設定を変更]**を選択した場合、または、**[入力ドキュメントのタイプ]**が**[片面 - 裏]**に設定されている場合に使用できます。

以下は、ホワイトバックグラウンドが効果的な例です。

- 四角形でない原稿をスキャンする場合に、原稿の外側の部分のイメージを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷の薄紙をスキャンする場合、背景色の影響をできるだけ抑える必要がある場合。

**読み取り面あたりのイメージ数** — 読み取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- **1**：1種類のイメージを生成します。
- **1 - 自動カラー検知**：原稿の内容を自動判別してカラースキャンと白黒スキャンを切り替えます。
- **1 - トグルパッチ**：トグルパッチを認識する毎にカラースキャンと白黒スキャンを切り替えます。
- **マルチ**：複数のイメージを生成します。

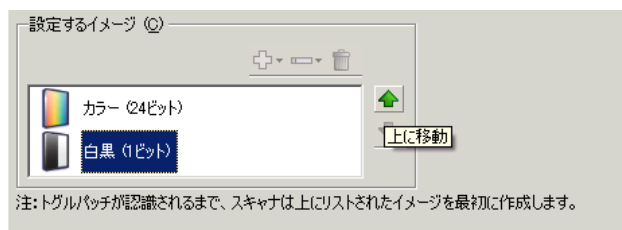
注：**[読み取り面あたりのイメージ数]**オプションから**[1 - 色量基準]**を選択すると、**[原稿内容の設定]**タブが表示されます。

設定するイメージ — 設定するイメージを示します。

注：[読取り面あたりのイメージ数] オプションから [1] 以外の項目を選択している場合、このオプションを使用できません。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- 原稿の内容に基づくカラー/グレースケールまたは白黒イメージの作成、例 1
- 原稿の各面に対する複数イメージの作成、例 2
- 原稿の両面にそれぞれ異なる設定を使用、例 3

スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上矢印と下矢印で選択します。



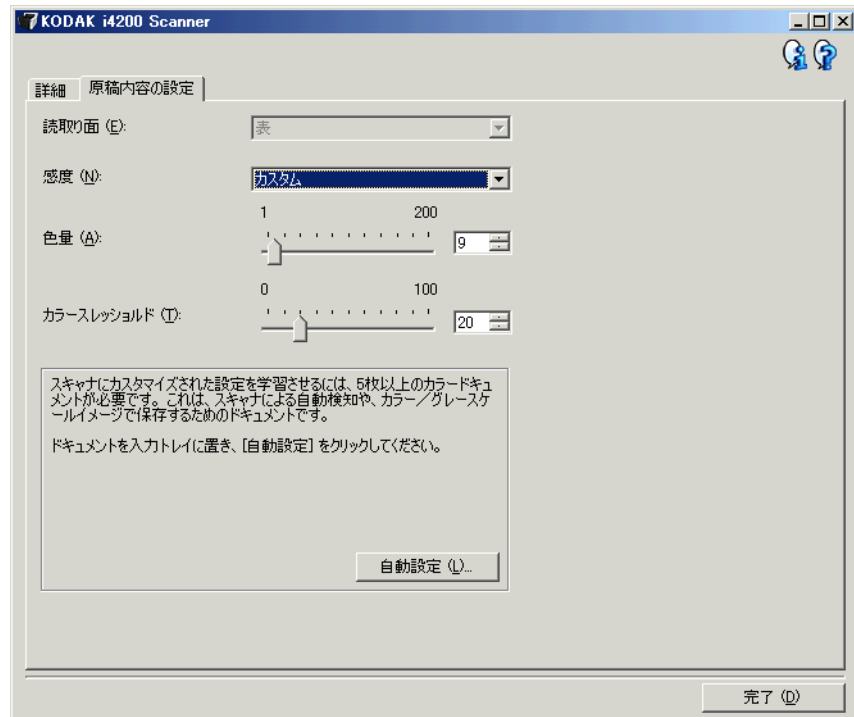
[ツールバー] ボタン：

	追加：設定リストの一番下にイメージを追加します。
	変更：現在選択されているイメージの種類を変更します。
	削除：選択したイメージの種類を削除します。

完了 — [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

## [原稿内容の設定] タブ

[原稿内容の設定] タブのオプションは、片面または両面に使用できます。



**読取り面** — [感度] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[詳細] タブで [読取り面ごとに設定を変える] が選択されている場合のみ利用できます。

### 感度

- **低**：カラー／グレースケールイメージとして保存する際に、原稿の色の量が少ない場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中**：カラー／グレースケールイメージとして保存する際に、[低] オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高**：カラー／グレースケールイメージとして保存する際に、[中] オプションよりも、色の割合が多い場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、[カラーレッシュヨルド] や [色量] 値の調整が必要になる場合があります。



- ・ **カスタム**：マニュアルで **[色量]** や **[カラーズレッシュヨルド]** の値を調整できます。

注： **[感度]** の値を設定する場合は、まず **[中]** オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー／グレースケールとして返された場合は、**[高]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー／グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合には、**[低]** に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足の良い結果が得られなかった場合は、**[カスタム]** を選択してマニュアルで **[色量]** や **[カラーズレッシュヨルド]** を調整してください。**[カスタム]** を選択した場合、**[自動設定]** モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨する設定値を算出させることもできます。

**色量** — 原稿をカラー／グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。**[色量]** の値を増やすと、必要とされるカラーピクセルの量も増加します。有効値は **1 ～ 200** です。

**カラーズレッシュヨルド** — 色量の算出時に特定の色を含めるための、カラーズレッシュヨルドまたは彩度です（薄青と紺色の対比など）。値を増やすと、必要とされる彩度が高くなります。有効値は **0 ～ 100** です。

**自動設定** — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。**[自動設定]** を選択する前に、入カトレイエレベータに5枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される **[色量]** が決定します。

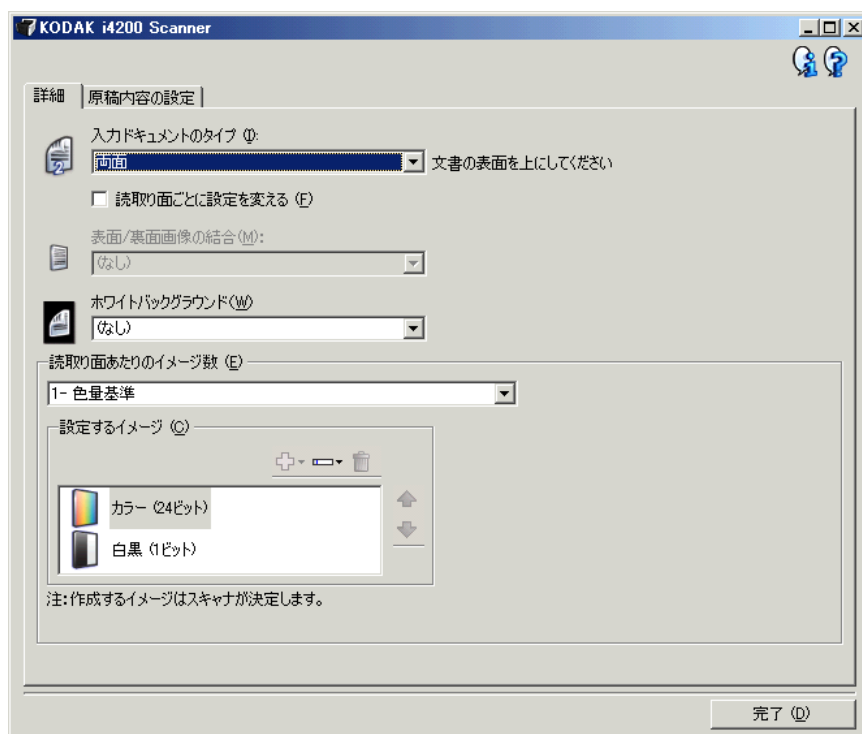
注： 計算に応じて **[色量]** と **[カラーズレッシュヨルド]** のスライダが自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラーズレッシュヨルド]** の値をマニュアルで調整してください。

**例 1 : 原稿の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え**

この例では、両面に情報が印刷されたカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージを出力します。

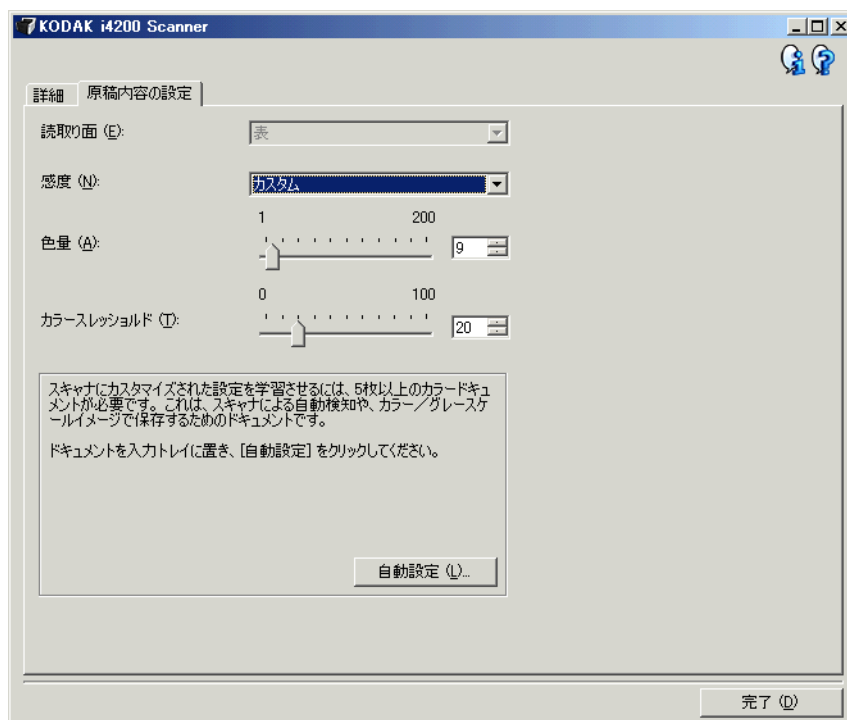
1. コダックスキャナーメインウィンドウから、[ 設定のショートカット ] を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. [ 設定 ] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの [ 詳細イメージセットアップ ] アイコンを選択すると、[ 詳細 ] タブが表示されます。
4. [ 入カドキュメントのタイプ : ] [ 両面 ] を選択します。
5. [ 読取り面あたりのイメージ数 : ] [ 1 - 色量基準 ] を選択します。

注 : [ 詳細 ] タブに [ 設定するイメージ ] が表示され、[ カラー ]、[ 白黒 ] イメージ項目があります。[ 原稿内容の設定 ] タブも表示されます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを表示する場合は、以下の設定をします。
  - [ カラー (24 ビット) ] を選択する
  - [ 変更 ] を選択してオプションのリストを表示する
  - [ グレースケール ] を選択する

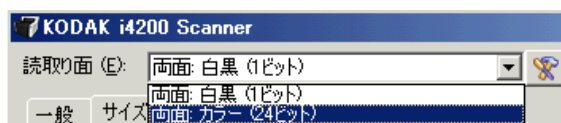
7. [原稿内容の設定] タブに移動します。



8. [感度] オプションを選択します。

9. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注：[読取り面] オプションから [両面：カラー（24ビット）]、および [両面：白黒（1ビット）] が選択できます。



10. [読取り面：] で [両面：カラー（24ビット）] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. [読取り面：] で [両面：白黒（1ビット）] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

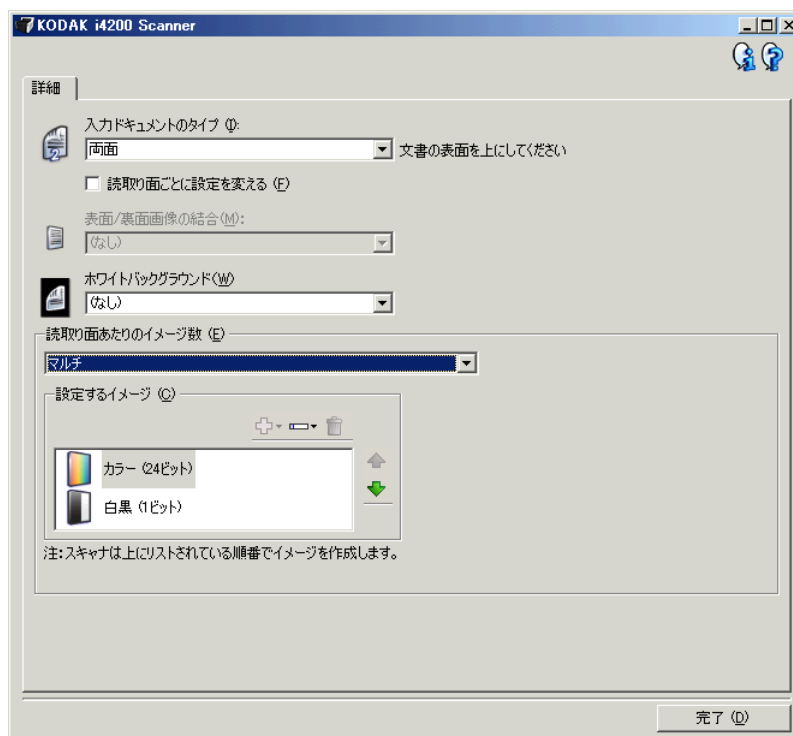
12. 選択が完了したら、[ホーム] を選択してコダック スキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

## 例 2：原稿の各面に対して複数イメージを作成

この例では、両面に情報が印刷されている原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

1. コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット]を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
2. [設定]を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの[詳細イメージセットアップ]アイコンを選択すると、[詳細]タブが表示されます。
4. [入カドキュメントのタイプ：][両面]を選択します。
5. [読取り面あたりのイメージ数：][マルチ]を選択します。

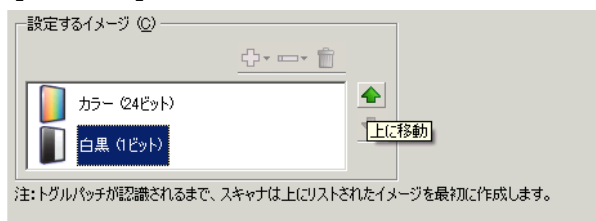
注：[詳細]タブに[設定するイメージ]が表示され、[カラー]、[白黒]イメージ項目が選択できます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、以下の設定をします。
  - [カラー (24 ビット)] を選択する
  - [変更] を選択してオプションのリストを表示する
  - [グレースケール] を選択する

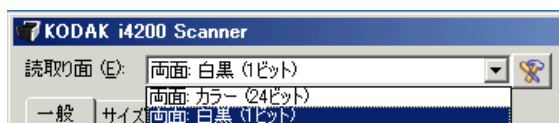
7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー／グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージを生成してスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に生成して送信したい場合、以下の設定をします。

- **[白黒 (1 ビット)]** を選択していることを確認します。
- **[上に移動]** を選択して、白黒イメージをリストの上に移動します。



8. **[完了]** をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注: **[読取り面]** オプションに、**[両面: カラー (24 ビット)]**、および **[両面: 白黒 (1 ビット)]** が選択できます。



9. **[読取り面:]** で **[両面: カラー (24 ビット)]** を選択します。

注: イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. **[読取り面:]** で **[両面: 白黒 (1 ビット)]** を選択します。

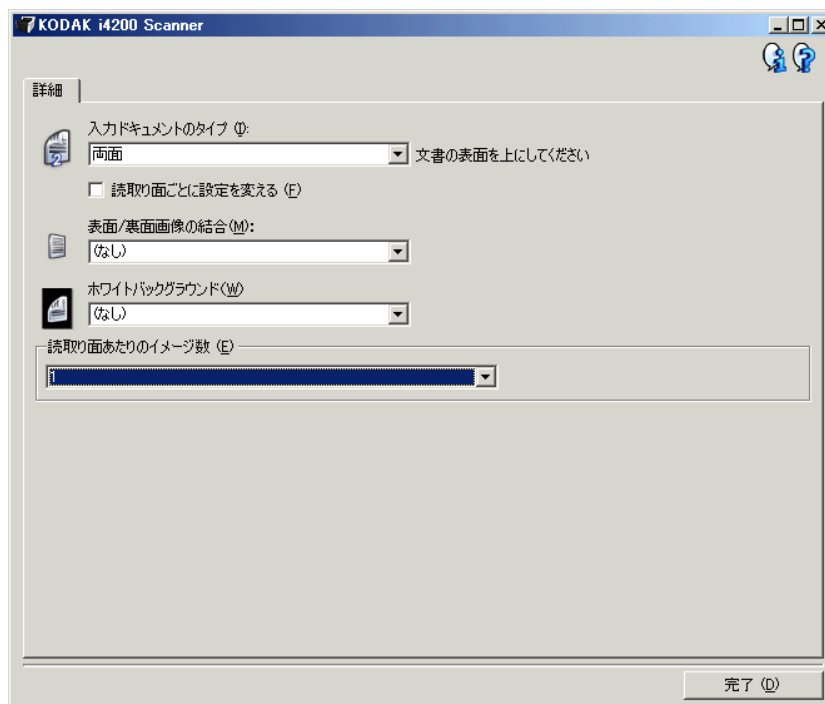
注: イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 選択が終了したら、**[ホーム]** を選択して **コダック スキャナー** メインウィンドウに戻り、**[保存]** を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

### 例 3 : 両面にそれぞれ異なる設定を使用

この例では、表面はカラーで裏面は白黒でスキャンする設定をします。

1. [詳細] タブを開いていない場合、以下の手順で設定します。
  - コダックスキャナーメインウィンドウから、[設定のショートカット] を選択し、現在の設定内容をさらに調整します。
  - [設定] を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
  - イメージ設定ウィンドウの [詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入力ドキュメントのタイプ:] [両面] を選択します。
3. [読み取り面ごとに設定を変更] オプションを選択します。
4. [読み取り面あたりのイメージ数:] [1] を選択します。



5. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注: [読み取り面] オプションに、[表] と [裏] の 2 つの項目が表示されます。



6. [読み取り面:] で [表] を選択します。
7. [一般] タブの [スキャン方法] オプションで、[カラー (24 ビット)] を選択します。

注: イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、表面の設定項目を調整します。

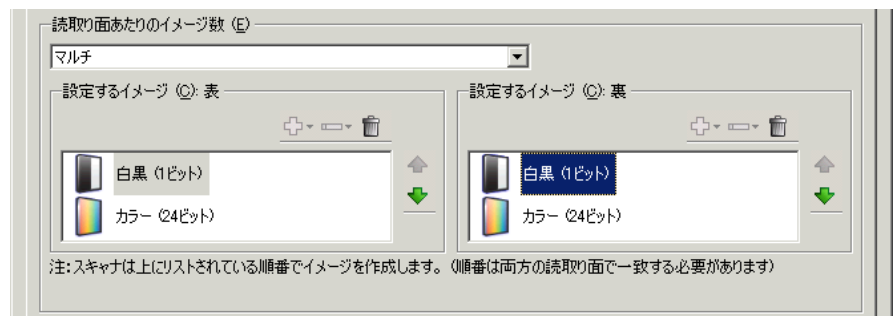
8. [読み取り面:] で [裏] を選択します。

9. [一般] タブの [スキャン方法] オプションで、[白黒 (1 bit)] を選択します。

注：イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

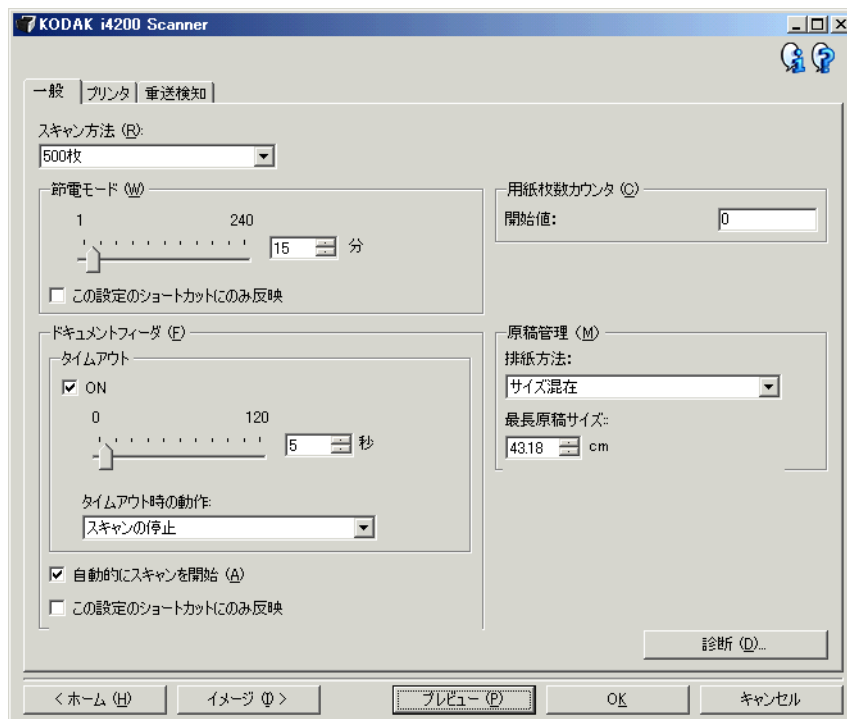
10. 選択が終了したら、[ホーム] を選択してコダック スキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの選択項目を保存します。

注：手順 4 で [読取り面あたりのイメージ数：[1] 以外のオプションを選択している場合、2 つの [設定するイメージ] オプショングループを使用できます。その場合は、表裏各面のイメージを個別にセットアップできます。



## デバイス設定ウィンドウ

このウィンドウからスキャナー固有のすべてのオプションや診断機能を利用可能なタブを使用して設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された [設定のショートカット] に保存されます。デバイス設定ウィンドウには、[一般]、[プリンタ]、[重送検知] タブがあります。



**ホーム** — コダックスキャナーメインウィンドウに戻ります。

**イメージ** — [イメージ設定] ウィンドウを表示します。

**プレビュー** — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビュー領域にスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。

**OK / スキャン** — このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

**注** : このボタンが [OK] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションの影響を受けます。

**キャンセル** — 変更内容を保存せずに、コダックスキャナーメインウィンドウを閉じます。

### 情報アイコン



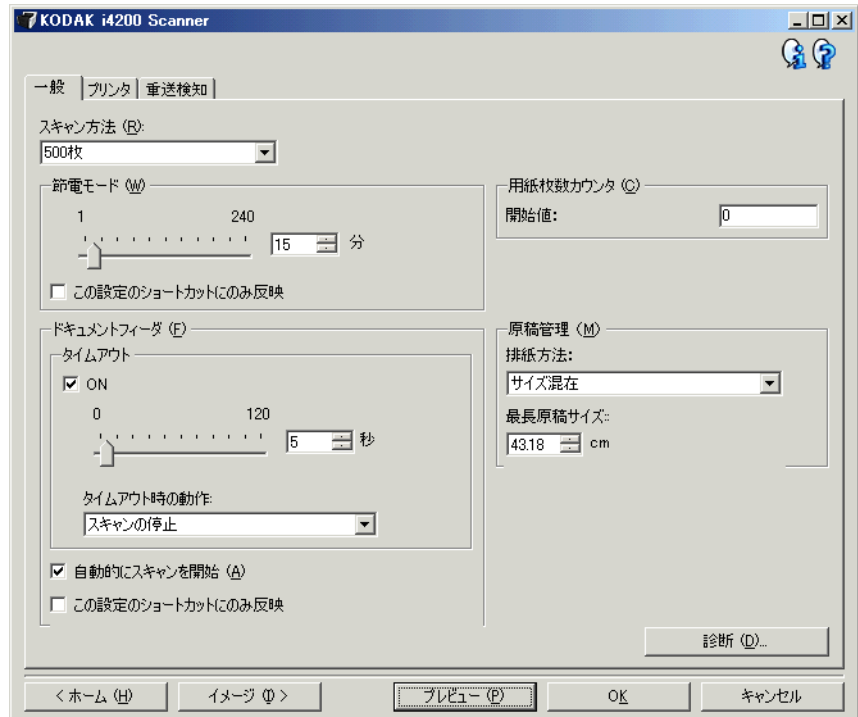
**バージョン情報** : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



**ヘルプ** : 現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。



[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



### スキャン方法

- **自動**：最初にドキュメントフィーダに原稿があるか確認します。入力トレイに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。
- **自動 - 100 枚**：まず、入力エレベータに原稿があるか確認し、入力エレベータに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25 ～ 100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **自動 - 250 枚**：まず、入力エレベータに原稿があるか確認し、入力エレベータに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **自動 - 500 枚**：まず、入力エレベータに原稿があるか確認し、入力エレベータに原稿がない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **ドキュメントフィーダ**：入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから 25 枚以内の原稿をスキャンしている場合に最適です。
- **100 枚**：このオプションは、入力エレベータから 25 ～ 100 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **250 枚**：このオプションは、入力エレベータから 100 ～ 250 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **500 枚**：このオプションは、入力エレベータから 250 ～ 500 枚の原稿をスキャンする場合に最適です。

- ・ **フラットベッド**：スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

注：[自動] および [フラットベッド] オプションは、フラットベッドアクセサリが接続されている場合のみ利用できます。

**節電モード** — スキャナーが操作されていないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

**電源オフ** — スキャナーの電源が自動的にオフになるまでの時間（分単位）を設定できます。

注：省電力設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。  
[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに影響を及ぼしません。

#### ドキュメントフィーダ

- ・ **タイムアウト**：最後の原稿がフィードされてから、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。このオプションは、無効にすることもできます。
- ・ **タイムアウト時のアクション**：ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定できます。
  - **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。
  - **スキャンの一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの [開始/再開] ボタンを押すと、スキャンを再開します。スキャナーの [停止/一時停止] ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

**自動的にスキャンを開始** — このオプションが選択されると、スキャナーは原稿が入力エレベータにセットされるまで最長 10 秒待機します。また、入力エレベータが空になった場合、原稿が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキャンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダのタイムアウトにより指定された時間待機します。

注：ドキュメントフィーダ設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、あらゆる変更は他のショートカットに反映されます。

**用紙枚数カウンタ** — スキャナーに入る次の原稿に割り当てる番号を入力します。スキャナーによってカウントアップされ、イメージヘッドにカウンタ値が送られます。

注：これを変更すると、デバイス - [プリンタ] タブの [カウンタ] オプションに影響が及びます。

## 原稿管理

- **処理** — スキャナーの原稿搬送方法を選択できます。これにより、スキャナーにフィードされる方法、搬送速度、出カトレイへの排紙方法に影響が及びます。
  - **標準**：追加処理は実行しません。同じサイズ of 原稿に最適です。
  - **サイズ混在**：サイズが混在する原稿用の出力方法で、順番に原稿を整えながら排紙します。一般的なサイズ混在スキャンで有効です。
  - **サイズ混在：ベスト**：原稿のサイズにかなり差がある場合でも原稿を順番に整えながら排紙します。
- **最大長** — スキャンできる最大の長さを設定します。

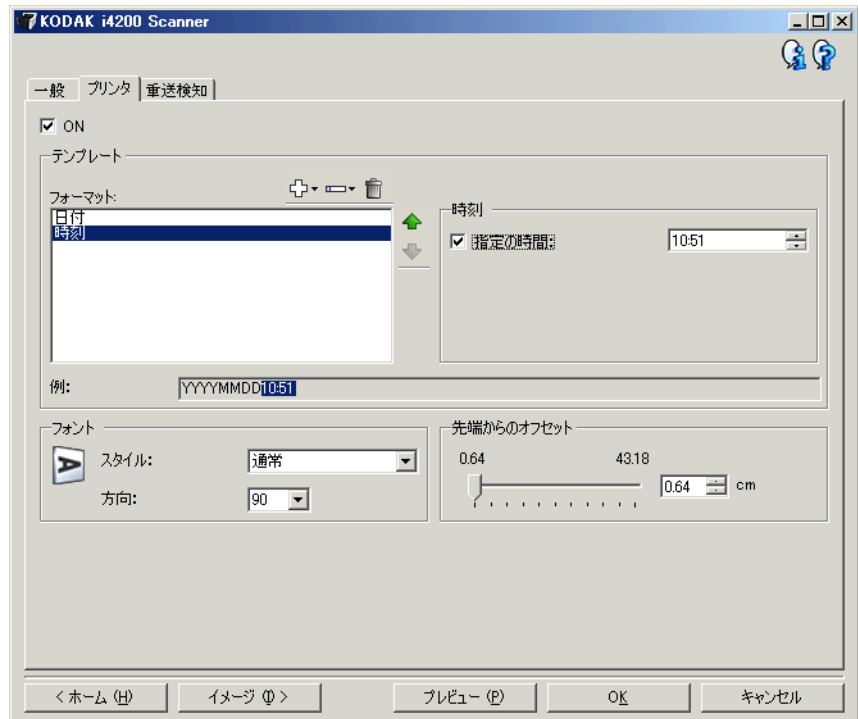
### 注：

- この値を変更すると、次の設定の最大値に影響が及びます。イメージサイズ - アウトライン；プリンタ - リードエッジからのオフセット；重送 - 長さによる探知。
- 長尺スキャンはすべての設定の組み合わせをサポートしません（解像度、カラー、グレースケールなど）。柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは対応できない長さが確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺スキャンの場合、スキャナーの処理能力が低下することがあります。

**診断** — [ 診断 ] タブを表示します。

## デバイス - [プリンタ] タブ

プリンタには、搬送方向に対し平行に印字できる機能があり、英数字、日時、原稿カウント、カスタムメッセージをサポートしています。印字情報は原稿ごとにすべてドキュメントヘッダレコードに取り込まれます。



**ON** — プリンタを有効にして、このタブの他のオプションを有効にします。

**テンプレート：フォーマット** — 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は 40 文字です（スペースを含む）。

### [ツールバー] ボタン

	<b>追加</b> ：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を 1 つ選択すると、その項目は [フォーマット] リストの最後に表示されます。
	<b>変更</b> ：[フォーマット] リスト内で現在選択されている項目を、表示されているそのリスト中の項目のいずれかと変更できます。
	<b>削除</b> ：現在選択されている項目を [フォーマット] リストから削除できます。

注：印字文字列を構成する場合、40 文字の制限に適合する項目だけを [追加] および [削除] リストから使用できます。

**項目** — 項目が選択されると、関連付けられたオプションはすべて [フォーマット] リストの右側に表示されます。

- **カウンタ** : スキャンセッションの原稿のカウンタ値です。この値はスキャナーによってカウントアップし、イメージヘッドに送られます。

- **開始値** : 次にスキャンされる原稿のカウンタ値を設定できます。

注 : この値を変更すると、デバイス - [一般] タブのオプションに影響が及びます。

- **フィールドの桁数** : カウンタの桁数を 1 ~ 9 桁の範囲で設定できます。たとえば印刷文字列が 6 文字しか残っていない場合は、桁数も 6 文字に制限されます。

- **ゼロ付き** : カウント値がフィールドの桁数以下の場合、カウンタのフォーマットを設定できます (以下の例はフィールド桁数が 3、カウンタが 4 です)。以下のオプションが選択できます。

表示 : “004”

非表示 : “4”

スペースとして表示 : “ 4”

- **日付**

- **フォーマット** :

MMDDYYYY

DDMMYYYY

YYYYMMDD

DDD (Julian)

YYYYDDD (Julian)

- **区切り記号** : (例では YYYYMMDD 形式です)

なし

スラッシュ : 2010/08/24

ハイフン : 2010-08-24

ピリオド : 2010.08.24

スペース : 2010 08 24

- **指定の日付** : スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、指定の日付を選択できます。

- **時刻** : HH : MM 形式です。
  - **指定の時刻** : スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、指定の時刻を選択できます。
  - **スペース** : スペースを追加します。
  - **メッセージ** : 印字文字列に固定文字列を指定できます。(スペースを含めて) 最大 40 文字まで指定できます。

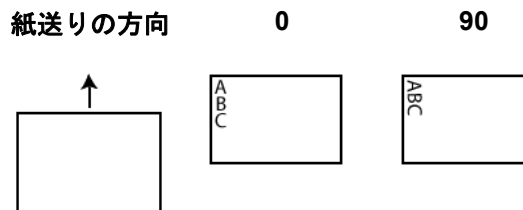
注 : 日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME 5.01 for Japanese - with Language Pack, English Language Version のインストールによって設定された MS ゴシックをフォントに使用する必要があります。 [www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5\\_win32/en/ime5\\_win32.htm](http://www.microsoft.com/msdownload/iebuild/ime5_win32/en/ime5_win32.htm) で入手できます。

- **テンプレートの例** : 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。[フォーマット] リストで項目を選択すると、例で該当の部分が強調表示されます。
- **フォント** : 情報を印字する方向を選択できます。
  - **書式** : 使用できる文字の書式は、標準、太字、極太です。



[標準] : 90 度回転      太字 : 90 度回転      極太 : 90 度回転

- **方向** : 文字を縦方向 (書類の先端から開始) に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは、0、90 です。

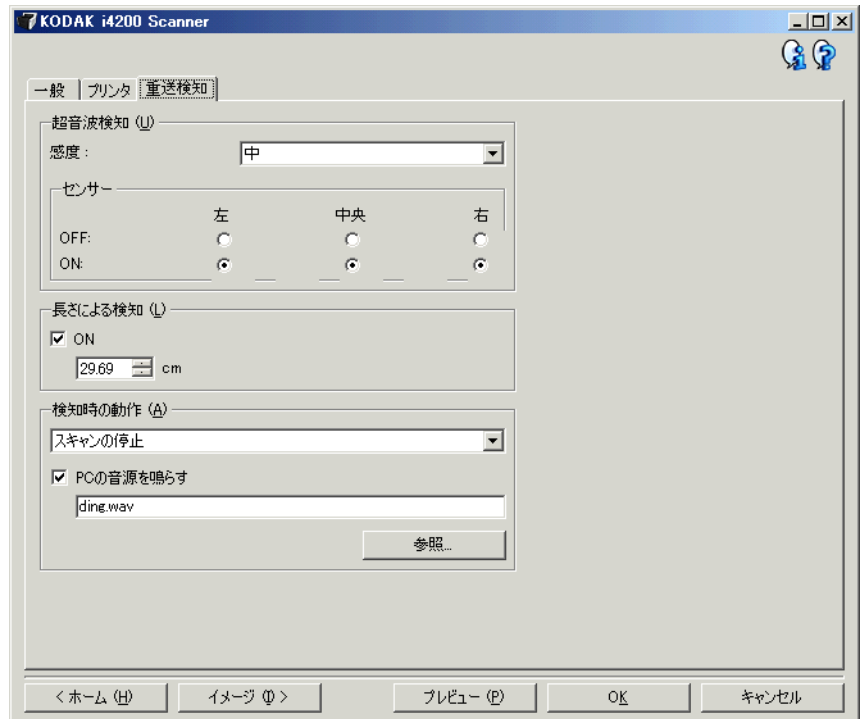


**先端からのオフセット** — 値を設定すると、書類先端からの印字開始位置を指定できます。

注：

- 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から 6.3 mm (1/4 インチ) のところで自動的に停止します。
- 印字の横位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの場所によって決まります。印字位置の設定についての詳細はユーザーズガイドを参照ください。

重送検知機能は、原稿が重なった状態でスキャンされるのを給紙された時点で検知します。重送はホッチキスで綴じられた原稿、糊のついた原稿、静電気を帯びている原稿が原因で生じます。



### 超音波検知

**感度** — スキャナーに複数の原稿が重なった状態で送られたかどうかを、どの程度まで検知するかを指定します。重送検知機能は、原稿との隙間を検出することにより、重なった原稿を識別します。そのため、厚さの異なる原稿が混在している場合でも重送を検知することができます。

- (なし)
- **低**：レベルが低い設定で、ラベルを貼った原稿、紙質の悪い原稿、皺がある原稿を重送として認識する可能性はもっとも低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定で重送を検出します。この設定は、すべての原稿が 75.2 g/m<sup>2</sup> のボンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に適しています。

注：設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送原稿として検知されます。



**センサ** — 3つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送書類が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左、中央、右**：このオプションで、どのセンサを有効 / 無効にするか選択できます。たとえば、書類の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサを無効にできます。

**長さによる検知** — スキャン原稿の最大の長さを設定できます。スキャナーがこの値より長い原稿を探知した場合、重送が発生したと判定します。このオプションは無効にできます。

**検知時の動作** — 重送を検知した時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

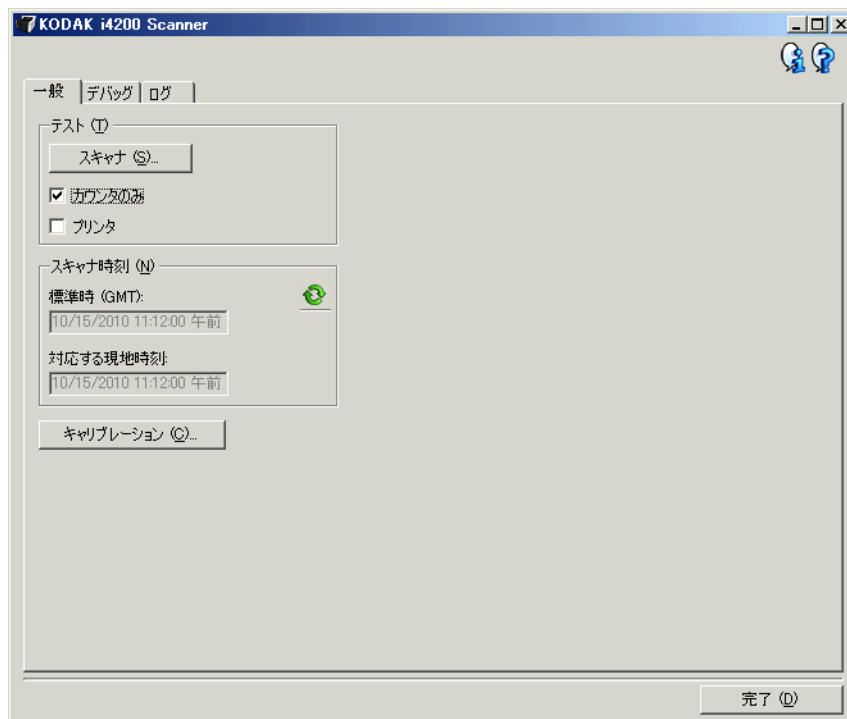
- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン停止 - イメージ生成**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送のイメージが生成されます。搬送路に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの停止 - 用紙を搬送部に残す**：スキャンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送路から原稿を取り除き、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャンの継続**：スキャナーがスキャンを継続します。
- **スキャンの一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは次のイメージを待機します（フィーダを停止します）。スキャナーの [ 開始 / 再開 ] ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの [ 停止 / 一時停止 ] ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

**PC の音源を鳴らす** — 重送検出時に音を鳴らす場合、このオプションを選択します。[ 参照 ] ボタンをクリックして、再生する .wav ファイルを選択できます。

注：コンピュータの音源は、スキャナーの重送検出時と同時に鳴らない場合があります。

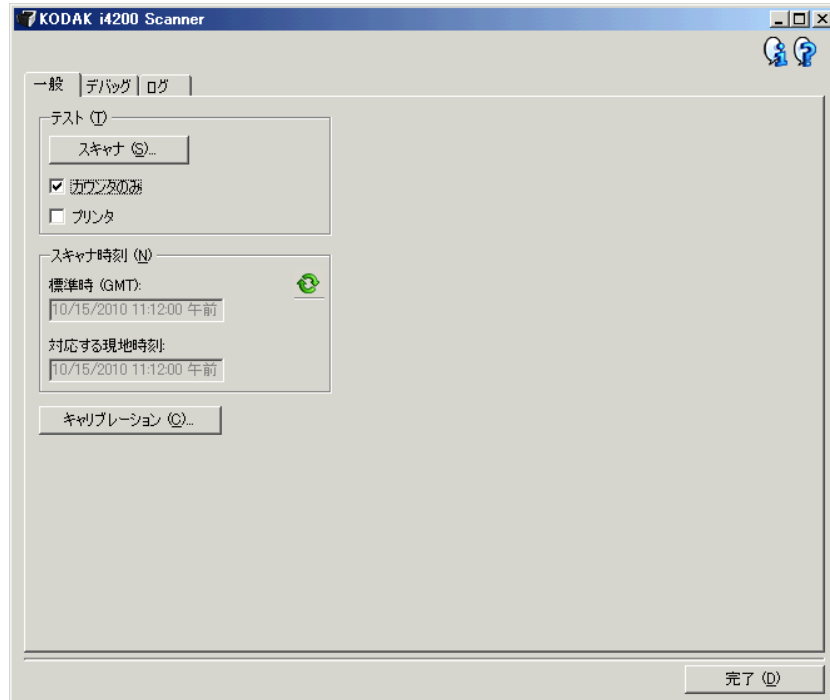
## [ 診断 ] ウィンドウ

このウィンドウからスキャナーの診断機能にアクセスできます。[ 診断 ] ウィンドウには [ 一般 ]、[ デバッグ ]、[ ログ ] のタブがあります。[ 診断 ] ウィンドウは、[ デバイス設定 ] ウィンドウの [ 一般 ] タブにある [ 診断 ] ボタンからアクセスできます。



完了 — [ デバイス設定 ] ウィンドウに戻ります。

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナーの時刻を確認できます。



### テスト

- **スキャナー**：電源投入時のセルフテストと似ていますが、さらに詳細なテストを行います。このオプションを選択すると、一連のテストが行われ、すべてのスキャナーハードウェアが正常に動作しているかどうかを確認されます。
- **カウントオンリー**：実際にイメージをスキャンアプリケーションに送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、このオプションが有効時のスキャンセッション中に実行されます。
- **プリンタ**：すべてのインクジェットが機能しているかなど、プリンタの機能性をテストします。このテストは、このオプションが有効時のスキャンセッション中に実行されます。

注：カウントオンリーおよびプリンタテストは、スキャンアプリケーションがスキャナーから切断されると、自動的に終了します。

### スキャナー時刻

- **標準時 (GMT)**：スキャナーのグリニッジ標準時を表示します。
- **対応する現地時刻**：スキャナーのグリニッジ標準時をコンピュータの現地時間帯で表示します。



更新：スキャナー時刻を再表示します。

**キャリブレーション** — [ キャリブレーション ] ウィンドウを表示します。このウィンドウからイメージまたは超音波キャリブレーションを実行できます。

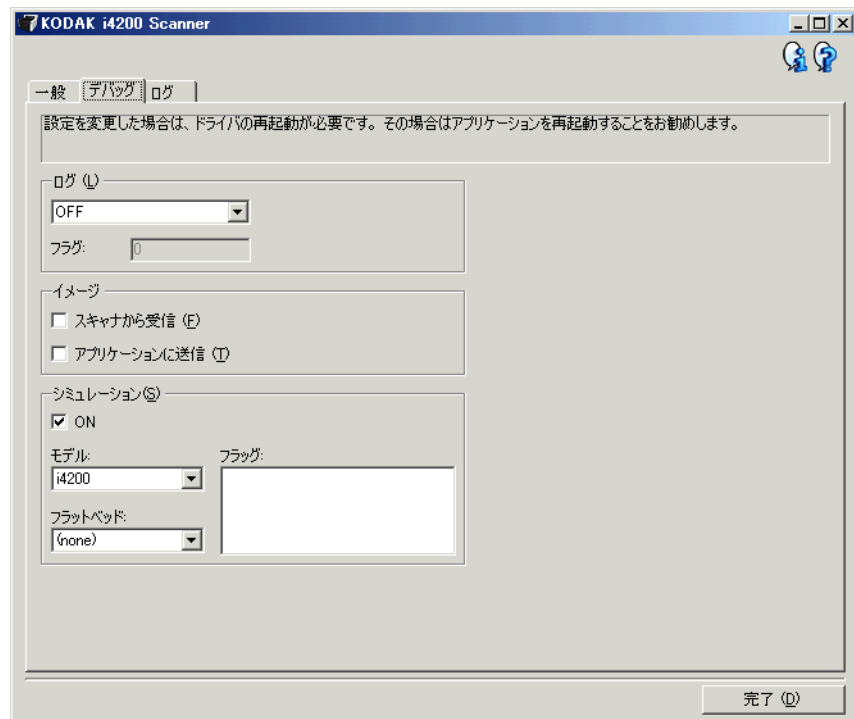
注：キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、また、推奨もしません。サポート担当者の指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

## 診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブを使用して、スキャナーを使用中に発生した問題を担当者が診断する場合に有効にします。サポート担当者からの指示があった場合にこのオプションを有効にしてください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用されます。
- このタブでの変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。



**ログ** — スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、[OFF]、[ON]、[カスタム] です。

### イメージ

- **スキャナーからの受信**：コンピュータがスキャナーから受信したイメージを保存します。
- **アプリケーションへの送信**：スキャンアプリケーションがスキャナーから受信したイメージを保存します。

**シミュレーション** — 実際にスキャナーを使わずに TWAIN データソースを使用することができます。

- **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
- **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを実行します。
- **フラグ**：TWAIN データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

## 診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報が表示されます。



### ログ

- **一般** : スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、付属 / インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ** : スキャナーのログが表示されます。このログはコダックサポート担当によってクリアされます。

### [ツールバー] ボタン



**名前を付けて保存** : すべてのログを保存し、コダックサポート担当が参照します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明** : ログを保存する問題 / 理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ** : ログの保存先です。
- **参照** : [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む** : 生成されたデバッグイメージをログとともに保存します。このオプションはデフォルトでオンになっています。サポート担当者から指示された場合は無効にしてください。
- **保存** : 拡張子が .eklog のファイルにログを保存します。



**更新** : 現在表示されているログを更新します。

# Kodak

コダック株式会社  
東京都千代田区神田駿河台 2-9  
KDX 御茶ノ水ビル  
Rochester, NY 14650 U.S.A.  
© Kodak, 2013. All rights reserved.  
TM: Kodak